

令和元年度第2回 あま市地域公共交通会議録要旨

令和2年2月28日（金）

午前9時00分から午前10時00分まで

あま市役所本庁舎 3階 特別会議室

1 出席者等

出席者等（委員） 13名
（事務局） 6名
（傍聴者） 2名

2 報告事項

東部巡回ルート（右回り）【東3 下萱津】の停留所の移設

【主な質疑等】

（各委員） 質疑なし。

（座長） 地権者が変わり要望をうけたことによる停留所の移設であり、移設も30mと軽微な変更となる。本来は協議し合意を得る必要があるが、軽微な変更のため報告でよい。

3 議題

（1）利用状況

（2）あま市巡回バスのあり方を定める「確認項目及び評価項目」

【主な質疑等】

（1）利用状況

<新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、報告のみ>

（座長） 例年並みであり、一日当りでは少し伸びている。

（2）あま市巡回バスのあり方を定める「確認項目及び評価項目」

（座長） 「確認項目」は数値で確認する。「評価項目」は「基準値」を設け、「基準値」を下回る場合は問題視する。特に「重点項目」の「地域公共交通施策に対する市民の理解」と「1便当たりの無料乗車券利用者数」は重要視し、この2項目が「基準値」を下回った場合は存続の判断をする。

2点伺う。1点目、指標間の整合性について、「利用率」は市民のうち何人が利用しているかであり、根拠数値はアンケート結果のため

実数ではないが、「実績値」より 0.14%の増加を目指している。「1 便当たりの利用者数」の「基準値」は「実績値」より増えるが、「1 便当たりの無料乗車券利用者数」の「基準値」は「実績値」と同じとなっているため、無料乗車券の対象者ではない人の利用が増えなければ、「利用率」は「基準値」に達しないため、巡回バスの目的と異なり、若い人が利用してくれたら良いという指標となる。「確認項目」の「収支率」が低いいため、有料の人の利用を増やしたいという意図であれば納得できる。

2 点目、「市民一人当たりの利用回数」の「基準値」は「実績値」よりわずかながら増加しているが、「利用率」の増加率と「市民一人当たりの利用回数」の増加率は整合がとれているのか。

(事務局) 最も重要視したのは想定利用者。65 歳以上の高齢者数と高齢化率、総人口の推移を基に「基準値」を定めている。「1 便当たりの利用者数」は、総人口が年々増加しているため、巡回バスの利用者数も増えると想定した。そのため、「市民一人当たりの利用回数」は、「1 便当たりの利用者数」と整合性を図っているが、「利用率」は、アンケート結果が基になっており、他の項目と整合性がとれていないため数値を見直す。

(座 長) 実数が基の項目は、整合性がとれている。総人口は増え高齢者人口は横ばいのため、それらに合わせた「基準値」とのこと。政策的な意図は感じられないが、現状が良い状態だという前提の数値設定となっている。

「利用率」はアンケート結果のため、他の「基準値」と整合性はとれていないがこれはやむを得ない。

「1 日当たりの利用者数の平均成長率」は、他の項目の数値から判断できるため必要ないと考えるが、項目とした意図があるのか。

(事務局) 「1 日当たりの利用者数の平均成長率」は、座長の指摘通り他の指標と重複しており、除いても良いと考えている。本会議で委員の意見を聞き判断したい。

(座 長) 委員の意見はどうか。

(委 員) 必要ない。

(委 員) 「一人当たりの輸送費用」は他自治体と比較しても高いが、「市民一人当たりの経費負担額」は他自治体と比較して低いのは運行日数が少ないため。経費は近隣と比べて低いため、良いのではないか。

(座 長) 「1 日当たりの利用者数の平均成長率」は必要ないという意見と「一人当たりの輸送費用」が高いことについて。

(事務局) 「一人当たりの輸送費用」は、他自治体と比較しても高い。数値は「運行経費÷利用者数」で算出しているため、運行経費が高い場合と

利用者数が少ない場合に費用は高くなる。当市は利用者数が少ないため、高くなっている。利用者数を増やす必要はあるが、巡回バスの運行目的に沿った利用者数の増加に取り組んでいきたい。

補足説明となるが、「1日当たりの利用者数の平均成長率」は、基準月を基に毎月の利用者数の成長率を算出している。利用者数はその月に起きた気象状況等の影響を受けるが、毎日運行では影響が少ないが、週3日運行は影響が大きくなるため、「1日当たりの利用者数の平均成長率」は相応しくないのではと考えている。

(座長) 「一人当たり輸送費用」は、サービス水準による。運行日が限られているため利用者も限定され、一人当たりの輸送費が高くなる。市民一人当たりの経費を増やし、サービス水準を上げれば利用者も増え「一人当たりの輸送費用」は減少する。現状では市民の負担をできるかぎり最小限にし、本当に困っている方だけを救っているため、「一人当たりの輸送費用」は高くなる。市の施策を表している。

「1日当たりの利用者数の平均成長率」は残すべきとの意見はなく、事務局も外的要因が大きいと考えている事から、削除としてよいか。

(各委員) 異議なし。

(座長) 資料に記載の内容と説明が異なっていた気がした。「地域公共交通施策に対する市民の理解」は、1%増加するためには44人の増加が必要と説明を受けたがどうか。

(事務局) 「基準値」の55%の数字を達成するために、「実績値」より概ね4.4%の増加が必要であり、1%が概ね10人のため、4.4%増加させるには、平成28年度アンケート結果の人数より44人の増加が必要という説明をした。

(座長) 1%の増加には概ね10人必要なため、4.4%上げるには44人が必要ですね。

「市民一人当たりの利用回数」も、76人と説明を受けたがどうか。

(事務局) 「市民一人当たりの利用回数」は、「1便当たりの利用者数」と整合性を図っている。「1便当たりの利用者数」を「実績値」より各路線0.1人増加させるには、年間76人必要となり、整合性を図ると「市民一人当たりの利用回数」は年0.001回増加させた年間利用者88人増加が最も近い数字となる。

(座長) 「利用率」は変わらない前提ですね。

(委員) 「利用率」は変わらず、利用者数と整合性を図った。

(座長) 「利用率」は増加としているため、「利用率」が上がれば、「1便当たりの利用者数」も今以上に増加するのでは。

(事務局) 「利用率」は他の項目と整合性が図れていないため、一度精査する。

- (座 長) 本日の協議事項をまとめる。「1日当たりの利用者数の平均成長率」は削除。「評価項目」のうち実数を基にした「基準値」は提案通りとする。「利用率」は、他の項目と整合がとれていないが、アンケート結果を基準としているため、どこまで精緻に定めるか検討し、見直す可能性がある。見直し後の「基準値」は事務局に一任する。
- (各委員) 異議なし。
- (座 長) 「利用率」の「基準値」は事務局に一任。
あま市巡回バスのあり方を定める「確認項目及び評価項目」は承認。

【その他】

名鉄バスと巡回バスの乗り継ぎについて

- (委 員) 名鉄バスの1月の乗降実績のうち、巡回バスと乗り継ぎ可能な停留所の利用状況を調査した。巡回バスは毎日運行ではないため、平日の運行曜日と運行曜日で無い日を平均値で比較した。
- 下之森の停留所は、巡回バスの運行曜日の利用状況の平均値は、乗車が98、降車が98.5。その他の曜日は、乗車が97.3、降車が92.4となり、若干金曜日の利用者が多いこともあるが、巡回バスの運行曜日の方が他の曜日より乗降者数は増えている。
- 七宝町桂の停留所は、巡回バスの運行曜日の利用状況の平均値は、乗車が204.5、降車が213.5。その他の曜日は乗車が191.3、降車が207.2。
- 下田の停留所は、巡回バスの運行曜日の利用状況の平均値は、乗車が49.3、降車が51.8、その他の曜日は乗車が48.4、降車が53.4。
- それぞれ運行曜日の方が利用者は多く、おそらくこの中に乗り継いで利用される人も居るのではないかと。継続して調査を進めていきたい。
- 名鉄バスの名古屋津島線や岩塚線の利用状況は、1月までの前年比で、名古屋津島線安松の経路で、前年比98.5%と前年を下回っているが、12月と1月は前年比100%を超えているため注視していきたい。岩塚線も同様で、前年比98.6%。12月と1月は前年比100%を超えており、年度末にかけても利用者が伸びる可能性もあり注視していく。
- 本日配布した資料について、名鉄バスの高齢者政策としてシルバーパス65、ゴールドパス70を発売する。これまで得々パスとして、3カ月、6カ月、1年という期間を一乗車100円で利用いただける権利を販売していたが、シルバーパス65、ゴールドパス70は1カ月単位の乗車券として販売し、購入後は一切費用がかからない乗車券とした。高齢の方や免許返納者に名鉄バスを使っただき、健康増進に繋げていただきたいと考えている。具体的な金額は資料に記載の通

り。利用可能な路線は、愛知県内名鉄バス全線となるが、空港バス、高速バス、近距離高速バス、観光路線の名古屋長島線及び各自治体のコミュニティバスは利用できない。利用方法は、乗車時に乗車口にタッチ、降車時に降車口にタッチする。得々パスに代わり、乗車券購入後は一切料金がかからないため、非常に分かりやすく、また利用しやすい高齢者向けの乗車券となる。

—終了—